

# ボランティアガイド募集

## 街歩きのガイドしてみませんか？

めぐろ観光まちづくり協会では、目黒区を皆さんと歩きながら勉強する「めぐろ観光講座」を実施しています。観光講座のご案内は「ボランティアガイド」の方々にお願いしています。ガイドの経験のない方でも、研修会に参加して勉強していただき、経験を積むことで、ガイドとなることができます。ご興味のある方はめぐろ観光まちづくり協会までご連絡ください。



ガイドの研修会も、新たな目黒を知る楽しみに。

目黒のいいところ伝える側になろう！

# 目黒 Finders 募集

## 目黒 Finders!! それって何？

目黒Findersって何でしょう。目黒区の素晴らしいところを、WEBを利用して全国に発信することを目的に活動している団体です。普段見過ごしていたようなこと、ちょっといい話、素敵なSHOPや美味しいレストラン、どんなことでも、あなたが知っている目黒区をみんなに知ってもらいましょう。本格的な活動を始めるに際し、メンバーを募集します。写真好きな皆さん、目黒に詳しい皆さん、メンバーに加わりませんか。ご興味ある方はめぐろ観光まちづくり協会までご連絡ください。

めぐろ観光まちづくり協会



日常のなかからみつける、目黒の魅力！！



めぐろ観光まちづくり協会 Meguro Tourism Association ☎03-5722-6850 E-mail : meguro@meguro-kanko.com

記念日を寿ぐ 目黒で慶ぶ

# 目黒雅叙園

記念日/婚礼/宿泊/宴会・セミナー/レストラン/文化財見学

〒153-0064 東京都目黒区下目黒 1-8-1  
TEL 03-3491-4111 (代表)

目黒雅叙園 検索 目黒駅から徒歩 3分



## 中国料理 香港園



目黒駅より徒歩1分、大通りから少し入った静かな佇まいの創業61年の老舗。単品料理やセットメニューも充実しており、本格中華をリーズナブルにお召し上がりいただけます。  
<http://www.hongkongen.com/>

目黒区下目黒1-8-8  
TEL.03-3491-1641/FAX.03-3493-2641  
営業時間：AM11:30～PM10:00  
ラストオーダーPM9:30 年中無休

# めぐろ EYE's Vol.12

まっなし、まっなしで  
楽しむことと活気

めぐろ EYE's

Vol.12

編集・発行  
めぐろ観光まちづくり協会

〒153-0051 東京都目黒区上目黒2-1-3 中目黒GT地下1階  
TEL.03(5722)6850 FAX.03(5722)6891 E-mail:staff@meguro-kanko.com  
<http://www.meguro-kanko.com>

JR 目黒駅 130周年

# 地域歴史探訪



目黒駅 エビスビール工場(大正13年頃)関 徹郎氏:画  
(目黒区めぐろ歴史資料館所蔵)



めぐろ観光まちづくり協会  
Meguro Tourism Association

130年間ずっと、

人が出発して帰ってくる場所。



# JR目黒駅開業

Shibuya

Ebisu

Meguro

Gotanda

## 祝130年！JR目黒駅の軌跡をたどって

明治15年(1882)、日本初の動物園「上野動物園」が誕生。翌年には華やかな社交場「鹿鳴館」が完成。その翌年は全国天気予報がはじまり、さらに翌年は初めて電話機と電燈が輸入され――。

明治維新後、それまでの遅れを取り戻すように、日本は急速に近代化を進めていきました。そんな中、電話機と電燈が初輸入されたのと同じ明治18年(1885)、3月16日に目黒駅は誕生しました。

あれから、130年。その長い歩みを振り返れば、普段何気なく利用している目黒駅の風景も、きっと違って見えるはず。

(取材協力：鉄道博物館、JR目黒駅)



土手の上を走る山手線(明治37、38年頃) 福井善吉氏:画 (目黒区めぐろ歴史資料館所蔵)



# 130年

Osaki

Shinagawa

Tamachi

Hamamatucho

## はじまりは「品川線」から

日本で最初に鉄道がつけられたのは、明治5年(1872)。新橋と横浜の間がレールで結ばれました。首都圏の鉄道網でその次にできたのが、上野と高崎・前橋をつなぐ路線。これは、群馬県を中心に盛んに生産されていた生糸を海外に輸出するため、横浜港へ運搬するのが目的でした。明治維新直後のこの時期はまだ日本に大きな産業がなく、生糸が主要な輸出品だったのです。

ところが、この2つの線路は、新橋と上野の間がつながっていません。当時から東京の中心地だったこの区間は、用地買収など

も難しく線路を通すのが簡単ではなかったのです。

そこで考えられたのが、新橋～横浜間にある品川と、上野～前橋間にある赤羽を結ぶ路線の敷設。つまり、都心ではなく、東京の市街地の西郊を迂回する形で2本の路線をつなごうというアイデアです。

こうして明治18年(1885)、品川～赤羽間の鉄道が開通し、目黒駅が誕生しました。「品川線」と呼ばれたこの線路が、のちに山手線となっていくのですが……そのお話は次ページで。

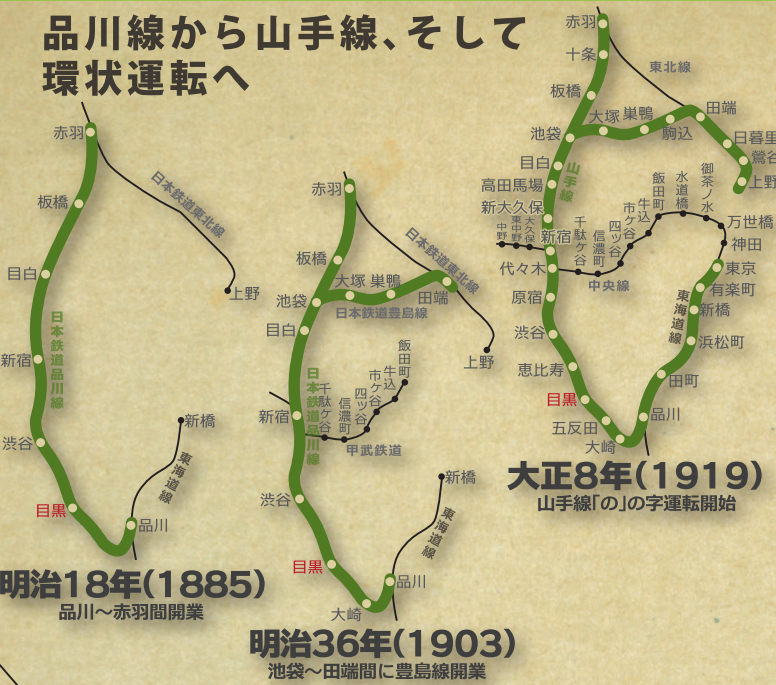
## 目黒に駅がつけられた理由

品川線の開業当初、品川～赤羽の間には目黒・渋谷・新宿・目白・板橋の5駅が置かれました。これらの場所には、ある共通点があります。

それは、街道。渋谷は大山街道(現在の国道246号)、新宿は甲州街道・青梅街道、板橋は中山道と、

それぞれ大きな街道があり、現在の目黒通りそして目黒通りも古くから利用されていた道でした。品川線は生糸を運ぶため、つまり貨物輸送のためにつくられた鉄道だったので、大きな通りと交差するポイントに駅を設けたと考えられます。

# 品川線から山手線、そして環状運転へ



明治から大正にかけて、首都圏の鉄道網は大きく発展していきました。品川線ができた8年後、池袋と田端を結ぶ豊島線が開通。明治42年、この両線を合わせて「山手線」と改称しました。その後、新橋～東京間もつながる一方、東京と中野をつなぐ中央線もでき、大正8年には山手線と中央線が相互に乗り入れる「の」の字運転を開始。そして大正14年にようやく東京～上野間がつながったことで、山手線は都心を一周する環状運転をはじめました。

## 駅名と地名の微妙な関係



さて、「目黒区じゃないのに目黒駅のナツについて。これは、今のよう路線や駅がたぐさんな時代。駅名はある中心地域への最寄り駅として名付けられたと考えられます。目黒(目黒不動・目黒川など)に行くにはこの駅が最寄りですよ、例えはJR品川駅(港区)や小田急線厚木駅(海老名市)など、駅名と地名が一致しない駅は他にも意外にあるようです。

Tokyo

### 目黒駅は“追い上げ”られた？

「目黒駅は、目黒区ではなく品川区にある」。雑学ネタとしてしばしば話題にされる、このトリビア、ご存じの方も多いのではないでしょうか。そう、確かにJR目黒駅の住所は、品川区上大崎。目黒区じゃないのに、なぜ「目黒駅」なのか。不思議ですよ。

そのナツを解く前に、おそらくこの不思議さとも関係していると思われる、こんなお話を聞いたことがありますか。

山手線(当時は品川線)が作られるとき、線路は品川から目黒川沿いに進み、途中で川を横切り、渋谷へと登っていく計画でした。目黒駅も目黒不動付近に設けられる予定であったようです。しかし、地元住民が、蒸気機関車の煤煙や振動が農

### 作物に及ぼす影響を懸念して反対運動を起こし、線路のルートも駅の場所も権之助坂の上まで追い上げた

この出来事は「目黒駅追い上げ事件」として、長く語り継がれてきました。こうした経緯があったために、目黒駅の場所は目黒区の外に“追い上げ”られたのだ、と。地元の間では、この事件は実際にあったのだと考えている人も多く、あるいは近くに建っていた火薬工場を回避するためだったとか、貨物の荷下ろしには坂の上に駅がある方が便利だったから、といった説もあるようです。

こうしたいくつもの理由が重なった上での位置なのかもしれません。しかし、史実として裏づける具体的な記録は今のところ見つからないようです。……この

歴史ミステリーは、まだまだ議論が継続中といったところです。

ただ、鉄道関係者の中では、目黒駅が目黒区にない理由として、次のような見解がもたれているようです。

### ホームの深さと130年前の事情

品川線建設当時は、もちろん電力で走る電車なんてない時代。鉄道を運行していたのは蒸気機関車でした。これは電車ほどのパワーはなく、上り坂は苦手。そのため、線路はできるだけ高低差が少ないように通す必要がありました。

海拔の低い品川から内陸の赤羽まで線路を敷く場合、その間には地形的に案外複雑な起伏が見られます。ここをいかにアップダウンを抑えて線路を敷くか、それには

どこを通るのが最も効率的か、合理的か。そんな視点から線路のルートが決められていったと考えられます。

特に五反田から渋谷にかけての起伏は厳しく、蒸気機関車にとっては難所。そこで地形を吟味したところ、現在の目黒駅の所を掘り下げて切り通しにするのが最善の策だったのでしょ。つまり、線路のルートも駅の場所も、あくまで自然の地形と当時の技術力から導き出された結果。そう考えるのが妥当なようです。

現在JR目黒駅のホームが深い位置にあるのも、130年前のこうした事情によるもの。隣のJR五反田駅は高架ホームになっていますが、それでも五反田～目黒間は山手線内で最も勾配がきついエリアなのです。

# 目黒駅前

## 昭和の風景

現在は、私鉄も含め一日約65万人もの人々が利用するマンモス駅へと発展した目黒駅。昔々の写真を見ていくと、そこには瓦屋根の駅舎から徐々に進歩する姿があります。

駅前に集う人々は、いったいどんな用事で駅に向かっているのでしょうか。そう想いを馳せると感慨深いものがあります。



① 昭和初年の目黒駅。右上に恵比寿のビール工場の煙突が。



② 昭和29年。目黒駅前白金方面。雪の日、都電の前を自転車か渡っていく。



③ 昭和36年。目黒駅にまたがる上大崎橋付近。



④ 昭和40年の目黒駅前。タクシーや通勤の人々で賑わう。



⑤ 昭和41年。目黒駅前で首都美化運動の清掃。



⑥ 昭和41年。目黒駅ホーム。

写真提供  
①、②、④、⑥、⑦、⑧  
目黒区めぐる歴史資料館より  
③、④、⑤  
しながわWEB写真館  
(品川区)提供



⑦ 昭和41年。建設中の目黒駅ビル。



⑧ 昭和42年。左上に恵比寿のビール工場が。

### 品川線 目黒駅発着の 運転本数 (一日あたり)

- ・明治18年 4往復
- ・明治27年 9往復

### 山手線の 運転間隔

- ・大正14年 12分毎
- ・昭和5年 4分毎
- ・昭和31年 3~6分毎

### 目黒駅の乗降者数 (一日あたり)

- ・大正5年度 約3,200人
- ・昭和10年度 約41,400人
- ・昭和31年度 約70,000人
- ・昭和43年度 約90,000人
- ・昭和60年度 約98,400人
- ・平成18年度 約200,000人
- ・平成25年度 約213,100人



### ホデ6110形

明治44年に製造された山手線用電車(有楽町停車場にて)。

## 目黒駅

でも大活躍!



### モハ40形

昭和10年頃に活躍したやや先頭が丸みを帯びた通勤電車。

### モハ63形

昭和19年から製造された戦時下の資材節約設計電車。



### 103系

昭和38年に登場。これ以降ウグイス色が山手線のラインカラーに。



### 205系

昭和60年にデビュー。平成17年まで山手線の主役として活躍。



写真提供: 鉄道博物館

## 歴代 山手線車両